

令和 6（2024）年度
自己点検・評価報告書

令和 7（2025）年 10 月
東京音楽大学

○自己点検・評価の状況

実施時期：令和（2025）年4月～10月

実施体制：自己点検・評価委員会及び事務局が協力して自己点検・評価を実施し、内部質保証推進委員会に結果を報告する。

実施方法：評価点数を示す。

○自己点検・評価基準

評価点数	評価基準（進捗状況を踏まえた当該年度としての評価基準）
5……達成	計画以上の成果が達成されている
4……順調	計画通りの順調に実施されており、十分に成果が認められる。
3……ほぼ順調	ほぼ計画通り順調に実施されており、概ね成果が認められる。
2……遅れ	一部計画の実施に遅れがある。
1……要改善	計画の実施に改善が必要である。

基準1. 使命・目的**基準項目1-1. 使命・目的及び教育研究上の目的の反映**

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	学内外への周知	使命・目的及び教育研究上の目的をどのように学生、教職員、役員、学外関係者に周知しているか。	5	本学WebサイトのURL 2024年度教員便覧 2024年度学生便覧
②	中期的な計画への反映	使命・目的及び教育研究上の目的を中期的な計画に反映しているか。	5	ビジョンの前文及び中期計画の「1. 大学の使命・目的」の記載内容 ビジョン策定時の会議議事録
③	三つのポリシーへの反映	使命・目的及び教育研究上の目的を三つのポリシーに反映しているか。	5	「大学ポリシー研究会」議事録（2011年～）
④	教育研究組織の構成との整合性	使命・目的及び教育研究上の目的を達成するために必要な学部・学科などの教育研究組織を整備しているか。	3	教育研究組織図
⑤	変化への対応	社会情勢や組織の改編などに対応し、必要に応じて使命・目的及び教育研究上の目的の検証を行っているか。	4	教学マネジメント会議議事録

基準1の自己評価**(1)成果が出ている取組み、特色ある取組み**

・ミュージックビジネス・テクノロジー専攻を設置し、伝統的な音楽大学の枠を超えて、音楽の感性与ICT技術の両方を身につけた新しいタイプの人材育成に着手した。

・本学の使命・目的である「東京音楽大学ビジョン」及び教育研究上の目的については、本学Webサイトや印刷物を通じ、学内外に広く周知しており、中期計画あるいは三つのポリシーに反映させている。「東京音楽大学ビジョン」の実現のため、2017年度以来、MLA、MMC、音楽文化教育、MBTの各専攻の設置やカリキュラム改変等を実施し、音楽をめぐる社会の変化に対応している。

(2)自己点検・評価や外部による評価で発見された課題など

・時代の変化に対応した教育研究上の目的及び三つのポリシーの見直し及び策定は急務である。

・教育研究組織が拡大する一方、副学長以下の教学運営ラインが「部会主任」のみであるため、ガバナンス的に脆弱であり、組織階層について検討が必要である。

(3)課題などに対する改善状況と今後の取組み予定

・2024年度の教育研究上の目的の検証と見直しを受け、2025年度は三つのポリシーの見直しを実施する。これは2027年度からの第Ⅲ期中期計画策定に向けた、本学の使命・目的の見直しの一環となるため、ポリシー見直し後、必要に応じてカリキュラム改編も検討し、学内への周知徹底を図る必要がある。

・その他の重要な取組みとして（1）文科省・大学・高専機能強化支援事業に基づく新学科設置準備（2）メディア芸術クリエイター育成支援事業に基づく新課程設置準備に着手する。

基準2. 内部質保証

基準項目 2－1. 内部質保証の組織体制

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	内部質保証のための組織の整備、 責任体制の確立	内部質保証に関する全学的な方針を明示しているか。	5	内部質保証推進規程、東京音楽大学内部質保証方針（本学Webサイト）
		内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。	5	本学Webサイト、内部質保証推進規程
		内部質保証のための責任体制が明確になっているか。	5	本学Webサイト、内部質保証推進規程

基準項目 2－2. 内部質保証のための自己点検・評価

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有	内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価をどのように行っているか。	5	2022年度～2023年度自己点検・評価報告書 自己点検・評価委員会議事録
		エビデンスに基づく自己点検・評価を定期的に実施しているか。	5	2022年度～2023年度自己点検・評価報告書 自己点検・評価委員会議事録
		自己点検・評価の結果を学内で共有しているか。	5	本学Webサイト
②	IR（Institutional Research）などを活用した十分な調査・データの収集と分析	現状把握のための十分な調査・データの収集と分析を行う体制を整備しているか。	5	Factbook2023

基準項目 2－3. 内部質保証の機能性

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	学生の意見・要望の把握・分析、 結果の活用	アンケートや学生との対話をはじめとする、学修支援、学生生活、学修環境などに対する学生の意見・要望をくみ上げるシステムを適切に整備しているか。	4	学生生活実態調査結果 東京音楽大学 在学生のページ
		学生の意見・要望の分析結果を教育研究や大学運営の改善・向上に反映しているか。	3	レッスン・授業アンケート集計結果 FD委員会議事録 専任教員業績評価項目
②	学外関係者の意見・要望の把握・分析、結果の活用	学外関係者に意見・要望を聞き、その分析結果を教育研究や大学運営の改善・向上に生かす努力をしているか。	3	後援会会報 東京音楽大学後援会会則 後援会理事と学生団体の懇談会（2024年12月7日開催） 「豊島区と区内大学との連携・協働に関する包括協定書」
③	内部質保証のための学部、学科、 研究科などと大学全体のPDCA サイクルの仕組みの確立とその機能性	三つのポリシーを起点とした内部質保証を行い、その結果を教育研究の改善・向上に反映しているか。	2	東京音楽大学内部質保証方針
		自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果を踏まえた中期的な計画に基づいた大学運営の改善・向上のための内部質保証の仕組みが機能しているか。	2	東京音楽大学内部質保証方針
		自己点検・評価、認証評価などの結果を積極的に公表・説明し、学生や学外関係者の理解・支持を得られるよう努力しているか。	3	本学Webサイト、FDアンケート

基準2の自己評価

(1)成果が出ている取組み、特色ある取組み

- ・専任教員業績評価の導入により、教員の教育・研究・学務各活動に対する意識が高まった。
- ・IR室に専任職員を置き、教育、研究、社会貢献、学生生活、進路状況、グローバルな活動、財務状況等に関する現状を包括的に把握し、Factbookとしてまとめた上で本学Webサイトに公開している。

(2)自己点検・評価や外部による評価で発見された課題など

- ・組織体制の整備およびFactbook作成による教学IR活動により、内部質保証の機能的枠組みは構築されているので、今後は機能の効果的運用が課題。
- ・FDアンケートの回答率が低いことに伴い、教員への適切なフィードバックが不十分な状況。低い回答率により得られたデータでは、教育活動の実態を適切に反映できず、組織的な教育改善策の立案に必要な根拠が不足している。また、学生による教員評価の適切な導入のあり方についても検討が必要。
- ・後援会以外の学外関係者からの意見や要望について、組織として把握・分析し、その結果を活動へ反映させる仕組みの構築が求められる。

(3)課題などに対する改善状況と今後の取組み予定

- ・大学の内部質保証の一環として、恣意性のない教員評価指標の検討を継続するとともに、FDアンケートの項目や実施時期を見直し、回答率の向上を図ることで、質保証に資する分析と改善策の精度向上を目指す。さらに、学外関係者からの意見聴取の方法を検討し、これらの取組を通じてPDCAサイクルを着実に回し、実効性ある内部質保証システムの確立を図る。

基準3. 学生

基準項目 3－1. 学生の受入れ

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	アドミッション・ポリシーの策定と周知	アドミッション・ポリシーを定め、周知しているか。	5	本学Webサイト、入試募集要項
②	アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証	アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜制度を整備しているか。	4	入試募集要項 12月入試運営委員会資料(「20〇〇年度各種入学者選抜試験課題及び日程確認のお願い」)
		入学者選抜などを、適切な体制のもとで公正かつ妥当な方法により実施し、その検証を行っているか。	3	入学試験運営委員会・教授会議事録、配付資料
③	入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持	入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。	5	5月教授会資料、本学Webサイト

基準項目 3－2. 学修支援

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	教員と職員の協働をはじめとする学修支援体制の整備	教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を適切に整備・運営しているか。	5	教務委員会規程
②	TA (Teaching Assistant)の活用をはじめとする学修支援の充実	学修支援のために、TA やSA(Student Assistant)などを適切に活用しているか。	3	TA規程
		オフィスアワー制度を全学的に実施しているか。	4	学生便覧、教員便覧
		障がいのある学生への合理的な配慮を行っているか。	4	2024年度支援学生リスト
		中途退学、休学及び留年などへの対応策を講じているか。	4	個々の相談記録 学生便覧、厳格な成績管理要項

基準項目 3－3. キャリア支援

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	教育課程におけるキャリア教育の実施	キャリア教育を教育課程に取入れ、適切に実施しているか。	4	カリキュラム表、シラバス
②	キャリア支援体制の整備	卒業後の進路に対する相談・助言体制を整備し、適切に運営しているか。	4	2024年度キャリア支援センター開催イベント一覧表

基準項目 3－4．学生サービス

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	学生生活の安定のための支援	学生サービス、厚生補導のための組織を設置しているか。	4	東京音楽大学事務局組織図
		学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談、学生の課外活動への支援をはじめとする学生サービスを、学生の多様性に配慮して適切に行っているか。	4	学生支援課 2024年度相談室利用者数 学校安全保健法 大学における自殺予防の手引き 2024
		奨学金など学生に対する経済的な支援を適切に行っているか。	4	2024年度奨学金受給者一覧

基準項目 3－5．学修環境の整備

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	校地、校舎などの学修環境の整備と適切な管理運営	教育研究上の目的の達成のために必要な校地、校舎などの施設・設備を整備し、適切に管理運営しているか。	5	授業カリキュラム（時間割） 校舎案内図
		快適な学修環境を整備し、かつ有効に活用しているか。	4	授業カリキュラム（時間割）
		ICT 環境を適切に整備しているか。	5	改修工事資料：完成図書
②	図書館の有効活用	図書館を十分に利用できる環境を整備し、教育研究に資する十分な学術情報資料を提供しているか。	5	図書館ホームページ https://tokyo-ondai-lib.jp/ 学術情報検索データベース https://tokyo-ondai-lib.jp/search2/database/ 図書館OPAC https://opac.tokyo-ondai-lib.jp/
③	施設・設備の安全性・利便性	施設・設備は、バリアフリーなど安全性と利便性を図り、学生の多様性に配慮しているか。	5	改修工事資料：完成図書
		施設・設備の安全性（耐震など）を計画に基づき適切に管理しているか。	5	改修工事資料：完成図書

基準3の自己評価

(1)成果が出ている取組み、特色ある取組み

- ・入試募集要項、本学Webサイト上の入試案内ページを再編し見やすくし、複雑化してきた年内入試等を一目で把握できるチラシを作成し、公表・配付を行った。
- ・教職共同体制で実施している教務委員会において、GPA、修得単位数を満たさない学生の情報を共有し、必要に応じ面談、指導を実施した。
- ・学生健康診断での事後措置対応では校医の意見を元に新たに対応フローを策定し、より積極的な受診勧奨や指導を行うことが出来た。TCM健康情報室（Googleサイト）で健康情報や医療機関情報など、情報提供の充実に努めている。
- ・付属図書館リニューアルをはじめとした施設・設備の改修工事により、利用者の満足度向上を図った。

(2)自己点検・評価や外部による評価で発見された課題など

- ・障がい学生支援体制の一層の充実が課題。とりわけ心のケアに関しては、専門的知見の蓄積が充分でなく、多様化する学生のニーズに的確に応じきれていない。さらに、健康教育に係る情報発信は閲覧率が低調であり、学生への定着が課題。
- ・消防の耐震改修指摘事項の一部は2025年度対応。B館外壁および外階段について修繕が必要との報告があり、優先順位をつけ計画する（北面外壁については工事着手）。
- ・付属図書館のLPレコード等、古い媒体の利用提供、目録整備について要検討。

(3)課題などに対する改善状況と今後の取組み予定

- ・各専攻内でポリシーの点検を実施。特にアドミッション・ポリシーについては、求める学生像の明確化が課題。
- ・学生生活に関しては、障がい学生支援研修への参加、学生サポーターの育成を検討。また、メンタルヘルス不調の学生対応では、スタッフの対応力向上が急務であり、研修参加など学習機会を作る。
- ・学生の健康教育では、TCM健康情報室の閲覧率が上がるよう、ユニバを通じた定期的な保健ニュースの情報を発信する。
- ・施設面（スタジオ、ホールをはじめとした本学の教育の要となる施設環境や外壁・床などの経年劣化に関するメンテナンス）の充実を次年度以降に計画的に進める。

基準4．教育課程

基準項目4－1．単位認定、卒業認定、修了認定

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	ディプロマ・ポリシーの策定と周知	ディプロマ・ポリシーを定め、周知しているか。	5	本学Webサイト
②	ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準などの策定と周知、厳正な適用	ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準などを適切に定め、周知し、厳正に適用しているか。	3	学則、学生便覧
		ディプロマ・ポリシーを踏まえた卒業認定基準、修了認定基準などを適切に定め、周知し、厳正に適用しているか。	3	本学Webサイト、学生便覧

基準項目4－2．教育課程及び教授方法

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	カリキュラム・ポリシーの策定と周知	カリキュラム・ポリシーを定め、周知しているか。	5	本学Webサイト
②	カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性	カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性を確保しているか。	5	本学Webサイト
③	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか。	4	本学Webサイト
		シラバスを適切に整備しているか。	3	シラバス執筆要領、教務委員会議事要録
		履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫を行っているか。	5	学生便覧
④	教養教育の実施	教養教育を適切に実施しているか。	5	本学Webサイト、学生便覧
⑤	教授方法の工夫と効果的な実施	アクティブ・ラーニングなど、教授方法を工夫しているか。	4	FD委員会議事要録、「教養演習」シラバス
		授業を行う学生数（クラスサイズなど）は、教育効果を十分上げられるような人数となっているか。	4	履修人数

基準項目 4－3．学修成果の把握・評価

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	三つのポリシーを踏まえた学修成果の把握・評価方法の確立とその運用	三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。	4	シラバス
		学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を把握・評価しているか。	4	本学Webサイト、学生便覧
②	教育内容・方法及び学修指導などの改善へ向けての学修成果の把握・評価結果のフィードバック	学修成果の把握・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。	4	本学Webサイト、学生便覧

基準4の自己評価

(1)成果が出ている取組み、特色ある取組み

・キャリア支援センターで過年度卒業生への就職先アンケートを実施し、本学の教育効果や学修成果の達成状況を検証している。

(2)自己点検・評価や外部による評価で見えられた課題など

・各専攻内で三つのポリシーの点検を実施した結果、時代の変化に対応した教育課程の再編成が必要であることが明らかとなった。しかし、編成後の教育課程の適切な実施を検証する専攻による自己点検・評価は未着手であり、また、シラバスに対する第三者チェック委員会による点検・改善も不十分な状況にある。教育課程全体の質保証システムの強化が急務である。

(3)課題などに対する改善状況と今後の取組み予定

・音楽大学の学修成果の可視化を目指し、ディプロマ・ポリシーに掲げた6つの能力の達成状況をGPAに基づいてグラフ化するなど、新たな点検・評価手法の検討を進めている。
特に、カリキュラムの中核をなす個人実技科目においては、数値評価にとどまらず、教員による講評の伝達などを通じて、実技の特性に即した成果の把握とフィードバックのあり方を模索する。

基準 5. 教員・職員

基準項目 5－1. 教育研究活動のための管理運営の機能性

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	学長の適切なリーダーシップの確立・発揮	学長がリーダーシップを適切に発揮できる体制を構築し、必要な規則を整備しているか。	4	東京音楽大学マネジメント会議規程
②	権限の適切な分散と責任の明確化	大学の意思決定の権限と責任が明確になっているか。	5	東京音楽大学学則
		教授会などの組織上の位置付け及び役割が明確になっており、機能しているか。	5	学則、教授会規程
③	職員の配置と役割の明確化	教育研究活動のための管理運営の遂行に必要な職員を適切に配置し、役割を明確化しているか。	4	東京音楽大学事務局組織図
		職員の採用・昇任の方針に基づく規則を定め、かつ適切に運用しているか。	4	採用昇格人事手続規程 非常勤職員の契約期間に関する規程 専門嘱託職員規程

基準項目 5－2. 教員の配置

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	教育研究上の目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任などによる教員の確保と配置	設置基準上必要な教員を確保し、適切に配置しているか。	5	教職員人数表
		教員の採用・昇任の方針に基づく規則を定め、かつ適切に運用しているか。	5	採用昇格人事手続規程 非常勤教員の契約期間に関する規程

基準項目 5－3. 教員・職員の研修・職能開発

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	FDをはじめとする教育内容・方法などの改善の工夫・開発と効果的な実施	教育内容や方法を改善するための研修・研究を教職協働で組織的・計画的に実施し、見直しを行っているか。	3	FD委員会規程
②	SDをはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取り組み	職員の資質・能力向上のための研修などを組織的・計画的に実施し、見直しを行っているか。	4	東京音楽大学スタッフ・ディベロップメント委員会規程 学校法人東京音楽大学教職員研修規程

基準項目 5－4．研究支援

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	研究環境の整備と適切な管理運営	快適な研究環境を整備し、有効に活用しているか。	5	公的研究費の使用に関する行動規範 公的研究費の不正使用防止に関する基本方針 公的研究費取扱規程 公的研究費の不正使用に係る調査等に関する取扱規則 公的研究費不正使用防止計画 公的研究費の管理・監査の体制 研究活動における不正防止規程 利益相反ポリシー 利益相反マネジメント規程 研究倫理審査規程
②	研究倫理の確立と厳正な運用	研究倫理に関する規則を整備し、厳正に運用しているか。	5	研究倫理審査規程 研究不正防止ハンドブック
③	研究活動への資源の配分	研究活動への資源配分に関する規則を整備し、設備などの物的支援とRA(ResearchAssistant)などの人的支援を行っているか。	5	東京音楽大学競争的資金獲得促進に係る支援に関する内規
		研究活動のための外部資金の導入の努力を行っているか。	5	セミナー動画、関連書籍、研究計画調書

基準5の自己評価

(1)成果が出ている取組み、特色ある取組み

- ・大学の意思決定を行うため、学長を議長とする教学マネジメントを設置し「教育研究上の目的」をはじめ重要事項について意見交換している。「学長室」を設置し、教学マネジメントを事務方からサポートする体制を整えた。
- また、学長主導の下、教学マネジメント会議委員で、ワーキンググループを結成し、具体的な教学改革に着手した。
- ・「研究倫理審査規程」を制定し、研究課程における社会調査等の点検体制を整えた。
- ・「競争的資金獲得促進に係る支援に関する内規」により、継続的な科研費等外部資金獲得の動機付けができた。

(2)自己点検・評価や外部による評価で発見された課題など

- ・本学におけるFD委員会の活動周知は不活発となっており、かつて発行されていた「FD通信」も途絶えている。また、教学マネジメントを支える学長－副学長以下の教員と事務組織との連携体制も充分とはいえず、全学的な方針が部会・専攻の教員にまで浸透する仕組みが整っていないのが現状である。

(3)課題などに対する改善状況と今後の取組み予定

- ・2022年度に策定した東京音楽大学教学マネジメント会議規程により、教学マネジメント会議が稼働している。今後は学長のリーダーシップの下で検討した「教育研究上の目的」を踏まえつつ、三つのポリシー（ディプロマ・カリキュラム・アドミッションポリシー）の見直しや、教学面の改善に取り組む。あわせて、授業内容の改善に資する授業アンケートの実施や、各部会・専攻内部における情報共有体制の強化も検討課題として挙げられる。

基準 6. 経営・管理と財務

基準項目 6－1. 経営の規律と誠実性

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	経営の規律と誠実性の維持	組織倫理に関する規則に基づき、適切な運営を誠実にやっているか。	5	学校法人東京音楽大学寄附行為 学校法人東京音楽大学就業規則
		法令などに基づき、教学マネジメント指針を参考に、情報の公表を適切に行っているか。	5	本学Webサイト「情報公開」ページのURL
		法人の業務の適正を確保するために必要な内部統制システムを適切に整備しているか。	5	内部統制システム整備の基本方針
②	環境保全、人権、安全への配慮	環境や人権について配慮しているか。	5	東京音楽大学SDG s 推進センター規程 育児休業等に関する規程
		学内外に対する危機管理の体制を整備し、それが適切に機能しているか。	5	学校法人東京音楽大学危機管理規程 東京音楽大学災害対応マニュアル

基準項目 6－2. 理事会の機能

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性	使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制を整備し、それが適切に機能しているか。	5	学校法人東京音楽大学寄附行為 学校法人東京音楽大学寄附行為施行規則
		理事会の運営を適切に行っているか。	5	学校法人東京音楽大学寄附行為 2024年度理事会議事録
		理事の選任を適切に行っているか。	5	学校法人東京音楽大学寄附行為 役員名簿
②	使命・目的の達成への継続的努力	大学の使命・目的を達成するために継続的な努力をしているか。	4	第Ⅱ期中期計画（2022年4月1日～2027年3月31日）

基準項目 6－3. 管理運営の円滑化とチェック機能

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	法人の意思決定の円滑化	意思決定において、理事会と評議員会が意思疎通と連携を適切に行っているか。	5	2024年度理事会議事録 2024年度評議員会議事録
		教職員の提案などをくみ上げる仕組みを整備しているか。	5	2024年度教授会議事録 2024年度部長会・事前打ち合わせ日程
②	評議員会と監事のチェック機能	評議員の選任を適切に行っているか。	5	学校法人東京音楽大学寄附行為 2024年度理事会議事録
		評議員会の運営を適切に行っているか。	5	学校法人東京音楽大学寄附行為 2024年度評議員会議事録
		監事の選任を適切に行っているか。	5	学校法人東京音楽大学寄附行為 2023年度理事会議事録
		監事は、監事の職務を適切に行っているか。	5	2024年度理事会議事録 監査報告書（2024年5月29日付）

基準項目 6－4．財務基盤と収支

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	財務基盤の確立	大学を運営するために必要な財務基盤を確立しているか。	3	中長期財務計画
②	収支バランスの確保	収入と支出のバランスが保たれているか。	3	中長期財務計画
		外部資金の導入の努力を行っているか。	3	中長期財務計画 決算報告
③	中期的な計画に基づく適切な財務運営	中期的な計画及びその裏付けとなる財務計画に基づく財務運営を行っているか。	4	第Ⅱ期中期計画 中長期財務計画 理事会資料・議事録

基準項目 6－5．会計

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	会計処理の適正な実施	学校法人会計基準や経理に関する規則などに基づく会計処理を適正に実施しているか。	4	東京音楽大学寄附行為 東京音楽大学経理規程
		予算と著しくかい離がある決算額の科目について、補正予算を編成しているか。	4	補正予算書
②	会計監査の体制整備と厳正な実施	会計監査人の選任を適切に行っているか。	4	原議書、監査契約書
		会計監査などを行う体制を整備し、厳正に実施しているか。	4	計算書類 監事監査報告書

(1)成果が出ている取組み、特色ある取組み

- ・ 定例の4回及び臨時開催を含め理事会がほぼ毎月開催されていることに加え、常勤理事会はほぼ毎月2回開催されており日常的決定も機動的に行われている。
- ・ 中期的な計画に基づく適切な財務運営は、理事会主導で定期的に検討・見直しをしており、計画通りに推移している。
- ・ 会計処理の適正な実施については、学校会計基準に基づく会計処理を実施しており、年2回補正予算を策定している。
- ・ 会計監査の体制整備と厳正な実を図るため、会計監査人の選任を適切に行っており、公認会計士による会計監査、監事による業務監査・会計監査を受けている。

(2)自己点検・評価や外部による評価で発見された課題など

- ・ 適切な体制と計画のもと運営され、情報公開はされているものの、その内容が学内には十分に浸透しているとは言えない。

(3)課題などに対する改善状況と今後の取組み予定

- ・ 簡潔で分かりやすい情報提供や、研修・説明会等、教職員が情報にアクセスするための補助的な支援が必要。

大学が独自に設定する基準

基準A. 社会貢献及び地域連携

基準項目A-1. 社会貢献及び地域連携の推進

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	音楽大学の特色を活かした社会貢献	演奏会等の実践による社会貢献を推進しているか。	5	本学HP、日本空港ビルデング株式会社との連携 TCMオーケストラ・アカデミーHP 藤田学園HP
		公開講座等、研究成果に基づく社会貢献を推進しているか。	5	本学HP、各実施要項 東京音楽大学リポジトリ 共同研究契約書（千葉大学）
②	音楽大学の特色を活かした地域連携	自治体等公的機関との地域連携を推進しているか。	5	各支部からの依頼演奏 豊島区報 としま未来財団HP 北本市文化センターHP
		産学連携等を通じた地域連携を推進しているか。	5	目黒区教育委員会 豊島区生涯学習・スポーツ課 各7大学の連携講座

基準Aの自己評価

(1)成果が出ている取組み、特色ある取組み

・地域連携・貢献活動において地域からの演奏依頼が大幅に増加し、学部生、大学院生に加え、TCMオーケストラ・アカデミーの受講生が、学生を補完する形で演奏機会を増やしている。

(2)自己点検・評価や外部による評価で発見された課題など

・社会連携における課題として、エクステンションセンターの開設までにはなお時間を要する状況。また、卒業生や校友会における母校への貢献意欲を、どのような形で協力につなげるかについて明確でない。

(3)課題などに対する改善状況と今後の取組み予定

・各活動は魅力的であるものの、関心層への対応や特定の場での一方的なコミュニケーションが中心となっているので、不特定多数への貢献を視野に入れた活動展開を検討していきたい。また、卒業生や校友会に対して、大学側から具体的な連携方策を提示することで、より効果的な支援を得ることとしたい。

基準B. 国際交流

基準項目B-1. 教育の国際化の推進

	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	自己判定	エビデンス
①	学生の海外派遣等の推進	学生の海外派遣等を推進しているか。	5	https://www.tokyo-ondai.ac.jp/information/14383.php 2024年度学生便覧
②	留学生の受入れの推進	留学生の受入れを推進しているか。	4	Factbook2024掲載予定
③	交流演奏会の実施	留学生あるいは海外教育機関との交流演奏会を実施しているか。	4	https://www.tokyo-ondai.ac.jp/news_en/exchange-student-concert-summer-2024 https://www.tokyo-ondai.ac.jp/news_en/japanese-music-friendship-concert-summer-2024 https://www.tokyo-ondai.ac.jp/news_en/japanese-music-friendship-concert-july-2024 https://www.tokyo-ondai.ac.jp/news_en/exchange-students-concert-at-the-art-festival-2024 https://www.tokyo-ondai.ac.jp/information/43880.php
④	公開レッスン・公開講座の実施	海外からの指導者を招聘し、公開レッスン・公開講座を実施しているか。	5	https://www.tokyo-ondai.ac.jp/en/master

基準Bの自己評価

(1)成果が出ている取組み、特色ある取組み

・中期計画および国際化推進方針に基づき、協定校との教員・学生交流を積極的に推進している。個人で海外のマスタークラス受講等活動に対しては、野島稔奨学基金海外渡航支援奨学金を支給し、学生の国際的な活動を支援している。本年度は学生が主要な国際コンクールで優秀な成績を収めるなど、教育成果が顕著に現れている。

(2)自己点検・評価や外部による評価で発見された課題など

・海外提携校との協定書について、経年により内容が現状に適合しなくなっている状況を踏まえ、定期的な点検体制を構築し、適切な更新管理を行う必要がある。また、交流が一部の学生や部会に限定されがちであるため、より多くの学生が参加できる国際交流機会の創出が必要。

(3)課題に対する改善と今後の取組予定

・協定書の点検を開始。また、本学主催による研究発表・交流演奏会等の開催や、国際コンクールで活躍する優秀な学生の紹介等を通じて、海外でのプレゼンスも高めていく。